【40】 国境としての河川

国と国との境界（国境）は、政治的な領土の獲得競争の結果として生じた人工的で直線状のものもありますが、一般的には、山脈、砂漠、河川、海などの自然の地形によるものが多いようです。

河川が国境となっている最長の例は、ロシアと中国の国境であるアムール川（黒竜江）とその支川のウスリー川によるもので、合わせて2500kmです。

最近、不法移民が問題となっているアメリカとメキシコの間を流れるリオグランデ川（リオはスペイン語で川の意味ですが）の国境部分は1300kmになります。

これらに比すると短いのですが、水源の白頭山から黄海まで中国と北朝鮮の国境となっている鴨緑江は約500kmです。

第2次大戦の結果、ポーランドとドイツの国境となった有名な“オーデル・ナイセの線”はオーデル川とその支川のナイセ川とで国境部分は約350kmです。

戦争と云えばイスラエル・パレスチナとヨルダンの間の国境となるヨルダン川は水源のヘルモン山から死海まで150kmで、フランスとドイツの国境をなすライン川の部分も150kmです。

多くの国々の国境となっているのが、ドイツに発し東ヨーロッパを貫流して黒海に注ぐ全長2900kmのドナウ川で、スロバキア、ハンガリー、セルビア、ブルガリア、ルーマニアなどの延長1000kmの国境となっています。

少々クイズ的な話題になりましたが、紹介した事例にみられるように河川と国境は縁が深いのです。